

2020 年度

# 事業報告

自 2020 年 4 月 1 日  
至 2021 年 3 月 31 日

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団  
Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

静岡県磐田市新貝2500番地

## 目 次

### 【事業報告】

「事業の概況」	-----	2
「事業別の状況」		
■スポーツチャレンジ助成事業（公1）	-----	3
1. スポーツチャレンジ研究助成・体験助成	-----	3
2. 助成事業の一環としてのフォローアップ活動	-----	4
■スポーツチャレンジ体験事業（公2）	-----	6
1. ヨットスクール・競技会の開催・運営	-----	6
(1)ヨットスクールの運営		
(2)競技会の開催		
2. 水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催		9
(1)教材の提供		
(2)体験会等の開催		
① タグラグビー体験会の開催		
② 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催		
③ その他の体験会等の開催		
■スポーツチャレンジ啓発事業（公3）	-----	13
1. 表彰(スポーツチャレンジ賞)	-----	13
2. 調査研究、シンポジウム等の開催	-----	14
3. その他情報発信	-----	17
【事務報告】		
1. 理事会、評議員会	-----	18

## 「事業の概況」

昨年来の新型コロナウイルス感染症の拡大は、第3波となって年明けも続き、3月下旬には変異株を伴う第4波となって首都圏他に再拡大、引き続き医療、経済はじめ社会全体に深刻な影響と不安を与えています。

私たちの日常においても、「三密回避」、「マスク・手洗い・うがい」、「外出自粛」が長期間にわたり、自由な生活を滞らせ、大切なコミュニケーションも SNS 上でしかできないなど、ストレスの多い生活を余儀なくされています。

当財団の事業分野においても、アスリートの練習環境悪化や国内外競技大会の延期・中止、研究者の活動環境の制約、また、子どもたちの学校や家庭生活にあっては、運動機会が減少するなど、子どもたちの成長への影響も懸念されます。

こうした中で、私たちの事業も昨年度開始直前からコロナ禍の影響を受け、参加者の安全を最優先するため、昨年3月スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング開催中止に続き、セーリング競技会開催中止、4月スポーツチャレンジ賞表彰式延期、葉山スクールを一時休校としました。また、法人運営でも理事会、定時評議員会を Web 会議や書面決議とするなど、関係者が一同に会する行事での運営方法の見直しを行いながら対処してきました。

個別事業として、助成事業では審査委員の協力を得て、14期生34名の活動を支援するとともに、新たに15期生となる若く優秀なチャレンジャー31名を選抜してきました。また、昨年開催できなかった SCM は、本年3月に主会場となる都内日本青年館ホテルでの代表者出席と、Web会議を取り入れたハイブリッド方式で第14回を開催しました。今回の SCM は新たな試みでしたが、入念な事前準備も奏功し、参加者の発言機会や質疑応答など臨場感と質的な面では、現実開催をも超えた価値と、新しいスタイルの参加型ミーティングとしての可能性を実感しました。15期生の厳粛かつ暖かな受け入れの場として、また、14期生には、コロナ禍で活動が大きく制約される中、創意工夫で困難を乗り越えてきた努力や成果に、多くの激励コメントが寄せられるなど、SCM の開催目的を十分果たすことができたものと思います。

体験事業においては、コロナ禍での第29回セーリング・チャレンジカップが中止となったものの、ジュニアヨットスクール葉山では、子どもたちの安全対策やコロナ禍での対応指針に沿ったスクール運営の徹底。また、地域を巻き込む活動、共感の輪を広げる方針の下、「ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会」や「タグラグビー教室」、「水辺の風景画コンテスト」では、各種調整を行いつつ開催し、趣旨に賛同いただいた多くの教員や指導者の皆さんが、子どもたちに少しでも運動や自然を体験する場を設けようと、奔走された姿を容易に伺い知ることができました。

2021年度は、当財団設立から15年の節目を迎えます。これまで5年ごとに「参加」「認知」「波及」というテーマを設け、大きなサイクルを一回りしたことになります。これまでに実現できたこと、できなかったことを振り返るとともに、スポーツ振興と人材育成を目的とし、「スポーツを通じて、夢の実現にチャレンジする人たちを応援する」という当財団の原点や、個別事業の目的を再確認し、前述のコロナ禍をはじめ、今後のさまざまな時代の変化に対応しながら社会的価値を高め、「ヤマハらしさ」のある持続的な活動として進化を続けていくために、次期中期事業方針を2022年度からのスタートに向けて現在検討を行っています。

2021年度の具体的な事業においては、引き続きコロナ禍の影響を受けざるを得ないと捉えています子どもたちなど参加者、関係者の方々の安全を最優先し、柔軟な直し・調整を加えながら事業を運営していく所存です。関係の皆様のごこれまでのご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

## 「事業別の状況」

### ■スポーツチャレンジ助成事業（公1）

本事業では、世界に羽ばたく逞しい人材の育成をめざし、スポーツ医・科学、スポーツ文化など、スポーツに関連する幅広い分野から、スポーツの普及・振興や競技水準の向上につながる学術的価値の高い学問・研究活動に対し、助成（研究助成）するとともに、スポーツを通して夢・目標の実現に向かってチャレンジするアスリート、指導者、審判などの分野から、高い志、明確な目的・目標、そして具体的プロセスを持ったチャレンジスピリット、フロンティアスピリットあふれる体験活動に対して助成（体験助成）を実施しています。

#### 1. スポーツチャレンジ体験助成・研究助成

<2020年度（第14期）の助成実績>

分野	2020年度（第14期）	※参考 2019年度（第13期）
体験助成	16件（15,461,900円）	15件（15,929,838円）
研究助成	18件（14,340,743円）	14件（12,750,000円）
合計	34件（29,802,643円）	29件（28,679,838円）

※第14期体験助成は1件辞退後の数値

<2021年度（第15期）助成対象者の募集概要>

募集期間	2020年9月1日（火）～10月30日（金）
告知方法	・ニュースリリース及び、関係大学、競技団体等への案内 ・当財団ホームページにて応募要項を掲載

助成分野・区分		応募資格	助成金額／件	助成件数
体験助成	ジュニア	ジュニア世代の国際大会での実績を有する、2008年4月1日以前生まれ（応募時、中学1年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限50万円	5件程度
	ベーシック	世界選手権など国際レベルを目指す、2006年4月1日以前生まれ（応募時、中学3年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限100万円	10件程度
	アドバンスド	世界選手権など国際レベルでの実績を有する、2006年4月1日以前生まれ（応募時、中学3年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限150万円	
研究助成	基本	助成期間中、大学や研究機関等で研究職として活動に従事する、1980年4月2日以降生まれの方。 ※教授職または教授職相当の職位の方を除く	上限120万円	10件程度
	奨励	助成期間中、大学院博士課程（博士後期課程）に在籍中または修了した方（学位未修得者を含む）のうち、1990年4月2日以降生まれの方。	上限60万円	5件程度

※助成期間は、2021年4月から1年間。

<第15期審査委員会開催>

審査委員会	審査分野	日 程	会 場	審査委員
第1回 (書類審査)	体験・研究助成	2020年12月6日(日)	都内日本青年館ホテル	15名
第2回 (面接審査)	体験助成	2021年1月23日(土)	ヤマハ発動機(株)	9名
	研究助成	2020年1月24日(日)	コミュニケーションプラザ3F	12名

<第15期応募、採択の状況>

※助成対象者詳細は別紙掲載

分 野	2021年度(第15期)			※参考 2020年度(第14期)		
	区 分	応募件数	採択件数	区 分	応募件数	採択件数
体験助成	アドバンスド	19	4	アドバンスド	25	4
	ベーシック	18	9	ベーシック	23	7
	ジュニア	6	2	ジュニア	7	6
	(計)	43	15	(計)	55	17
研究助成	基 本	26	9	基 本	30	9
	奨 励	27	7	奨 励	20	9
	(計)	53	16	(計)	50	18
	(合 計)	96	31	(合 計)	105	35

<第15期助成金額(採択時)>

分 野	2021年度(第15期)	※参考 2020年度(第14期)
体験助成	15件(15,958,529円)	17件(15,961,900円)
研究助成	16件(14,689,100円)	18件(14,340,743円)
助成額合計	31件(30,647,629円)	35件(30,302,643円)

<第15期助成金贈呈式>

※第14回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの中で開催

開催日	会 場	出席対象者
2021年3月28日(日) 10:00~10:40	都内日本青年館 ホテル	第14・15期助成対象者他、役員、審査委員が出席。 ※助成対象者代表2名が会場出席、以外はオンライン出席。

## 2. 助成事業の一環としてのフォローアップ活動

チャレンジの成果と同様に、そこに至るプロセスを大切にしている当財団の助成制度では、助成対象者に対して、PDCA(Plan Do Check Action)を基軸に、活動の振り返りや、異分野交流を通じた相互刺激、気づきの機会を提供するなどフォローアップ活動のプログラムを実施しています。

### (1) 第14期四半期活動報告書の提出

助成開始時に提出されたチャレンジ年間計画に対し、四半期ごとの進捗状況を、CNS(チャレンジャーズ・ネットワーク・システム)を介して報告させ、審査委員から一人一人にアドバイスをを行いました。

## (2) 第14期中間報告会の開催

初めての試みとして Web 会議方式で開催した中間報告会では、チャレンジャーから上半期の活動経過を報告し、チャレンジャー相互や審査委員も含めた活発な質疑応答がなされました。

### <2020 年度(第14期)中間報告会>

日 程		主会場及び開催方式	チャレンジャー	審査委員
第1回	10月3日(土)	御茶ノ水ソランティカンファレンスセンターを 主会場に、参加者はオンラインで参加	8名	9名
第2回	10月4日(日)		8名	8名
第3回	10月24日(土)		8名	10名
第4回	10月25日(日)		10名	10名

## (3) 成果報告会および修了式について

スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングは、年度末の時期に現・新チャレンジャーと審査委員が一同に会して1年間のチャレンジ成果や課題を確認するとともに、異分野の交流を通じて多様な価値観に触れ、一人ひとりがスポーツについて「語り」「学び」「考える」機会を提供することを目的として開催している行事です。

コロナ禍の中での第14回は、初めての試みとして Web 会議方式で開催しましたが、参加者の発言機会や質疑応答など、臨場感と質的な面では、現実開催を超えた価値と、新しいスタイルの参加型ミーティングとして今後の活用可能性を実感しました。

### <第14回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの概要>

日 程	主会場及び開催方式	議 題	出席対象者
2021年 3月28日(日)	都内日本青年館ホテルを 主会場とする Web 会議方式	・第15期生助成金贈呈式 ・特別講演 ・第14期生成果報告会他	・第15期生 31名 ・第14期生 34名 ・審査委員 10名他

## (4) スポーツチャレンジ助成表彰

現在、または過去に本助成制度を受け、成果報告会等で報告されたチャレンジャーの中から、優れた成果を上げ、スポーツ振興に貢献されたチャレンジに対し、審査委員会での審議を経て、スポーツチャレンジ助成「特別賞」、「優秀賞」をスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの中で授与しています。

### <賞の概要>

賞名称	対象となるチャレンジ	授与対象者
特別賞	助成対象者が世界の舞台で、世界に伍する成果を発揮し、スポーツ振興およびスポーツレベルの向上に、大いに貢献したと認められた者に対して表彰する。	審査の結果 2020年度は 対象者なし
優秀賞	助成特別賞に準ずる成果及び、貢献が認められた者を表彰する。	

## (5) 情報公開

助成対象者のチャレンジの実像や、フォローアップ活動の様子などを社会に情報発信することを通して、スポーツにかかわる人たちの意識向上を促すとともに、スポーツの持つ価値や有用性を社会に訴求していくことを目的に、ホームページなどを通じてさまざまな情報を広く社会に発信しています。

## ■スポーツチャレンジ体験事業（公2）

社会や家庭生活における環境の変化などにより、子どもたちの体力・運動能力の低下や、水辺・自然体験の機会が減少していると言われる中で、次代の人材育成の基礎となる、心身ともに健全な子どもたちの育成をめざし、スポーツや自然がより身近なものとなるさまざまな運動機会や水辺・自然体験機会の創出をめざしています。

本事業では、「子どもたちのスポーツ現場のより近くに」を大切な視点に置いて、私たちの持つ事業リソースを活かし得る分野で各種体験機会を提供しています。

### 1. ヨットスクール・競技会の開催・運営

#### (1) ヨットスクールの運営

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を目的に、小学生から高校生を対象として、通年型(4月から翌年3月)のヨットスクールを、神奈川県葉山町葉山マリーナを拠点に運営しています。

世代や、個々のセーリングの技術レベルに合わせた独自のクラス分けと、これに沿ったカリキュラムにより、原則、月2回から3回の通常講習を行なっています。

セーリング指導、強化練習、水辺活動・安全対策、加えて、近年の取組みとして、逞しい心や競う力も養うことを目的に、葉山スクール周辺で開催される大会に積極的に参加するなど、より総合的な視点でのプログラムを実施しています。2020年度は36名のスクール生を対象に実施しました。

#### <指導方針>

- ① 年度初めの段階で、1年間の目標を設定し、PDCAに基づく指導
- ② セーリングに関する適切な知識、経験、技能を備えた指導者による適切な指導
- ③ 逞しい心や競う力を養う目的から、葉山スクール周辺で開催される対外レースに積極的に参加
- ④ 夏季には集中的に取り組む強化練習の実施
- ⑤ 「自然・水辺体験学習」を取り入れた、より総合的なプログラムを通じて、海、水辺、海事に関する教育
- ⑥ スクールの指導理念や活動状況を共有し、理解協力を促進する目的で保護者会を年2回開催

#### <スクールで講習クラス>

- |                   |                             |
|-------------------|-----------------------------|
| ① ベーシッククラス(入会初年度) | 毎月2回(年間24回)                 |
| ② マスタークラス         | 毎月2回(年間24回)                 |
| ③ エキスパートクラス       | 毎月2回(年間24回)                 |
| ④ クラブ(中学生以上)      | 毎月2・3・4回(年間24・36・48回)の中から選択 |

#### <コロナ禍での2020年度のスクール活動>

新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、首都圏を中心に緊急事態宣言が発令される中で、子どもたちや指導者の安全を最優先するため、スクールの全活動を2020年4～6月、2021年1～3月の期間を休校としました。また、スクールでの講習再開に際しては、以下の対応指針を策定し、指導者、保護者、スクール生に周知して対応してきました。

<コロナ禍における対応指針>

- ① ハーバー内での活動時間を短縮し、できるだけ他の利用者との過密状態を回避し、接触を低減するため、参加対象者を2グループに分けて開催。
- ② 自宅出発前までに検温を実施し、指導者代表に報告する。また、以下の場合は参加を見合わせる。
  - ・ 体調不良(37.0度以上の発熱、咳、咽頭痛、味覚・嗅覚異常等)の場合
  - ・ 同居家族や身近な知人に感染者及び感染が疑われる人がいる場合
- ③ 陸上(マリーナ施設内)におけるマスクの常時着用の徹底。
- ④ 人との会話は1m以上の距離を取って行う。
- ⑤ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を徹底する。
- ⑥ 更衣室の利用は、周囲の利用者と距離をとってできるだけ短時間で利用する。
- ⑦ タオルやウェア、備品・艀装品等の貸し借り、使いまわしは行わない。
- ⑧ 全体ミーティングは行わず、グループ毎に屋外で行う。
- ⑨ 感染した際は、スクール事務局に速やかに連絡する。

<通常講習以外の主な活動>

実施内容		日程	場所
<2020年>			
1	ジュニアオリンピックカップ(OP級) 2名出場	8月1日・2日	和歌山セーリングセンター
2	ジュニアオリンピックカップ(Laser級) 1名出場	8月14日～16日	和歌山セーリングセンター
3	OP級東日本選手権大会 5名出場	9月20日～22日	江の島ヨットハーバー
4	レーザークリニック 3名参加	10月3・4日	江の島ヨットハーバー
5	第34回小沢吉太郎記念ヨットレース 9名出場	10月17・18日	江の島ヨットハーバー
6	Laser級中部選手権大会 2名出場	10月24・25日	蒲郡海陽ヨットハーバー
7	第1回 BocciCUPヨットレース 5名出場	11月1日	江の島ヨットハーバー
8	OP級全日本選手権大会 3名出場	11月20日～23日	江の島ヨットハーバー
9	Laser級全日本選手権大会 3名出場	11月20日～23日	三重県津ヨットハーバー
10	第17回ジュニア・ユース クリスマスカップ 4名出場	12月19・20日	江の島ヨットハーバー
11	2021OPナショナルチーム候補合同練習 3名参加	12月26・28日	江の島ヨットハーバー
<2021年>			
12	第2回 SAILFAST CUP 5名出場	1月9～11日	葉山沖
13	2021OPナショナルチーム候補合同練習 3名参加	1月23・24日	蒲郡海陽ヨットハーバー
14	2021OPナショナルチーム候補合同練習 3名参加	2月6・7日	蒲郡海陽ヨットハーバー
15	2021OPナショナルチーム候補合同練習 3名参加	3月6・7日	蒲郡海陽ヨットハーバー
16	2021OP級ナショナルチーム最終選考会 3名出場	3月19～21日	蒲郡海陽ヨットハーバー

## (2) 競技会の開催(セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖)

本事業は、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、全国のジュニア・ユースセイラーが一堂に会し、日頃の練習成果や、次年度の目標確認の場として、また、選手・指導者同士の交流や技術向上に資するため、選手及び指導者を対象として、元五輪日本代表等による技術指導や、レースにおける戦略、戦術に関する勉強会を行うなど、「学べるレガッタ」を特徴として開催しています。

※今年度は第29回として以下の大会開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため大会を開催中止しました。

### <第29回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖の概要 (当初予定)>

開催日時	2021年3月26日(金)～28日(日)(3日間)
開催場所	静岡県立三ヶ日青年の家
共同主催	(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団、NPO 法人静岡県セーリング連盟
公認団体	(公財)日本セーリング連盟(承認番号 2020-35)
運営協力	NPO 法人静岡県セーリング連盟
助成	(独法)日本スポーツ振興センター「スポーツ振興くじ助成金」 JSC 助成金交付決定額 5,130,000 円 当該助成金は、指導講師、医師、審判員・スタッフ等への謝金、大会役員への宿泊費・交通費、運営艇等の借用料・運送料等に使用予定です。 
協賛	三井住友海上火災保険株式会社、株式会社ノースセールジャパン、パフォーマンスセイルクラフトジャパン株式会社、有限会社 SAIL FAST
後援	スポーツ庁、公益財団法人日本スポーツ協会、静岡県、静岡県教育委員会、公益財団法人静岡県スポーツ協会、浜松市、浜松市教育委員会、公益財団法人浜松市体育協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、静岡朝日テレビ、NHK 静岡放送局、静岡第一テレビ、テレビ静岡、K-mix、FM Haro!、日本オプティミストディンギー協会、日本レーザークラス協会、日本420協会
協力	静岡県立三ヶ日青年の家、南平自治会
競技種目	・1人乗り:レーザー 4.7 級、レーザー ラジアル級 OP級(初級・上級) MH級 ・2人乗り;420級 (注)レーザー 4.7 級、レーザー ラジアル級は、2021年ユース世界選手権選考を兼ねる、

※助成金交付確定額 74,800 円 (コロナ対応SNSページ制作費に使用)

## 2. 水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催

### (1) 教材の提供

本事業は、スポーツ教材の活用を通じて、子どもたちが楽しく体を動かすきっかけとなり、スポーツ好きな子どもの増加、体力・運動能力の向上、心身の健全な育成の一助となることを目的に、全国の幼稚園、小学校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブなどを対象に実施しています。教材提供先には、活用報告書の提出を求め、模範的な活用事例は、当財団ホームページ等に掲載して社会啓発に努めています。

#### <2020年度「スポーツ教材の提供」の概要>

募集期間	2020年2月26日(水)～4月20日(月)
活用対象	幼児から小学生
提供先団体	「子どもたちがスポーツを楽しみ、好きになる取組み」を計画している団体(保育園、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校、児童養護施設、児童クラブ、教育委員会、体育協会、スポーツ少年団・クラブ・スクールなどスポーツに取り組む団体)
教材内容	① サッカーボール      ② タグラグビーセット
募集方法	当財団ホームページおよび教育委員会など通じて告知
選考方法	書類審査の上、第三者による抽選により決定
結果通知	当財団ホームページに抽選結果掲載後、提供先団体へメールにて通知

#### <申請状況および抽選結果> ※スポーツ教材提供先詳細は別紙掲載

申請数	657団体(前年度527団体)
抽選会	4月29日(水)ヤマハ発動機ラグビー部 大戸裕矢主将による抽選
抽選結果	120校・団体(前年度120校・団体)

### (2) 体験会等の開催

#### ① タグラグビー体験会の開催 「はじめてのタグラグビー教室」

ヤマハ発動機(株)の協力を得て、直接指導可能な当財団所在地の周辺地域(静岡県西部地域の磐田市・袋井市・掛川市・周智郡森町)をモデルエリアとして、当地区の小学校を対象に募集を行い、申請のあった2校(計4回)に実施しました。運動が得意な子ども、苦手な子どもも楽しく一緒に取り組めるタグラグビーに、児童108名と教員が参加しました。

#### <2020年度 実施校>

実施した小学校		日 程	児童対象
1	磐田市立岩田小学校	12月9日(水)2・3時限	3年生19名、4年生25名
2	磐田市立豊田東小学校	2月17日(水)2・3時限	3年生64名
計	小学校 2校	4時限	108名

② 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催

本事業は、子どもたちの水辺体験や自然体験の促進が社会的な課題となっている中で、幼児・児童を対象に、海や川などの水辺に出かけ、そこで得たさまざまな体験をテーマに絵を描くことによって、水辺への興味・関心を高め、また、表現力や感性を育むことを目的として絵画コンテストを開催しています。

このコンテストは、水辺の絵を描くことを一つのきっかけとして、実際に海や川など水辺や自然の中での実体験を促す趣旨から体験事業に位置付けて運営しています。

<第32回全国児童 水辺の風景画コンテストの概要>

募集期間	2020年7月22日(水)～9月23日(水)
対 象	幼児、小学生
募集方法	当財団ホームページおよび募集リーフレットなどにて告知
協 賛	Love the Earth 実行委員会、三井住友海上火災保険(株)、マルマン(株)、(株)ワイズギア
特別協賛	ヤマハ発動機(株)
後 援	文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、(一社)日本マリン事業協会、(公社)日本ユネスコ協会連盟、(NPO)ジャパンゲームフィッシュ協会、(一社)日本マリーナ・ビーチ協会、(独法)国立青少年教育振興機構、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会
審査日程	予選会:10月13日(火) 最終審査:10月27日(火)
受賞者発表	11月5日(木)
表 彰	最優秀賞 : 文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞 特別賞 : 審査員長賞、日本マリン事業協会会長賞、日本ユネスコ協会連盟賞、日本マリーナ・ビーチ協会会長賞、ジャパンゲームフィッシュ協会会長賞、国立青少年教育振興機構理事長賞、日本海洋レジャー安全・振興協会会長賞、ヤマハ発動機賞、YMFス特別賞 優秀賞 : 金・銀・銅賞(幼児、小学校低学年・高学年各部門) 入 選 : 360点(入賞作品23点、秀作175点、佳作162点)
応募状況	作品数:6,556点(前年度10,308点) 団体数:396団体(前年度701団体)

<審査会の開催>

審査会	内 容	日 程	会 場	審査員
予選会	専門家(画家)による審査を行い、入選作品決定	10月13日(火)	ヤマハ発動機(株) コミュニケーションプラザ	2名
最終審査	専門家、後援省庁・団体代表者による審査で入賞作品決定	10月27日(火)	都内御茶ノ水ソラシティ	14名

<各大臣賞表彰式>

※コンテスト入賞者の詳細は別紙掲載

賞名	日程	開催会場	受賞者／贈呈者
文部科学大臣賞	12月22日(火)	岐阜県 こぼと西幼稚園	受賞者:松浦 遥香さん(年少) 贈呈者:YMFS 小島事務局長
環境大臣賞	12月21日(月)	愛媛県今治市立 富田小学校	受賞者:芝田 亜子さん(5年生) 贈呈者:YMFS 小島事務局長
国土交通大臣賞	12月7日(月)	東京都足立区立 島根小学校	受賞者:堀 若菜さん(6年) 贈呈者:国土交通省関東地方整備局 東京港湾事務所長 川崎俊正氏
農林水産大臣賞	受賞者都合により同校に一任	兵庫県明石市立 錦が丘小学校	受賞者:石井 晴登さん(6年生) 贈呈者:同校校長

<入賞作品の紹介>

情報公開	当財団ホームページにて掲載
作品展示	1)ヤマハ発動機(株)コミュニケーションプラザ2F(1~2月)にて展示
	2)「ジャパンインターナショナルボートショー2021」会場での展示公開 4月15日(木)~18日(日)横浜ベイサイドマリーナ及びバーチャルボートショー

③ その他の体験会等の開催

近年の社会や家庭など生活環境の変化を背景に、子どもたちが自然の中や水辺での活動する機会や、運動機会が減少していると言われていた中で、身近にこれらを体験する機会を提供することを通じて、心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を支援すべく、当財団がこれまでの事業で培ってきた知見やネットワーク等を活用し、当財団所在地周辺の地域を対象に体験機会を提供しています。

・「親子で学ぶ水辺の体験会」

静岡県浜名湖三ヶ日青年の家を会場に、7~8月に開催を予定していた「親子で学ぶ水辺の体験会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

・「パラスポーツ(ボッチャ)体験会」 チャレンジ!・ユニ★スポ

パラスポーツ「ボッチャ」は、障害者スポーツとして生まれた競技ですが、幅広い年齢層や運動能力、障害の有無にかかわらず、参加者誰もが楽しめ交流できるスポーツです。

スポーツを通じて多様性への理解を深める機会として、静岡県障害者スポーツ協会の協力を得て、静岡県下12の小学校で体験授業「チャレンジ!ユニ★スポ」を開催し、児童、教員861名が楽しく体験しました。

また、2019年度開催校の協力を得て、参加児童にアンケート調査を実施(体験前、後、数か月後)し、子どもたちの障害や障害者スポーツなどに関する意識や視点がどのように変化するかを確認し、調査報告書を発行しました。

<パラスポーツ(ボッチャ)体験会開催実績>

回	日 程	学 校 名	参 加 者 数		
			児童生徒	教員	合計
1	9月3日(木)	袋井市立袋井西小学校	76	3	79
2	9月8日(火)	菊川市立河城小学校	37	4	41
3	9月30日(水)	伊東市立東小学校	40	5	45
4	10月14日(水)	磐田市立磐田西小学校	95	5	100
5	10月20日(火)	磐田市立豊田東小学校	75	2	77
6	10月27日(火)	袋井市立山名小学校	145	4	149
7	11月4日(水)	掛川市立中小学校	22	2	24
8	11月10日(火)	浜松市立笠井小学校	81	3	84
9	11月12日(木)	御殿場市立朝日小学校	78	4	82
10	11月13日(金)	静岡市立由比小学校	43	4	47
11	12月4日(金)	浜松市立追分小学校	54	8	62
12	12月18日(金)	伊豆の国市立大仁小学校	68	3	71
合 計			814	47	861

## ■スポーツチャレンジ啓発事業 (公3)

本事業では、誰もがスポーツに親しみ、チャレンジと活力にあふれる社会の実現をめざし、事業活動の現場から、スポーツの持つ価値や有用性、環境整備など、スポーツ振興に関する情報発信や提言を行っています。具体的には、1. スポーツ振興に大きく貢献した人物・団体を表彰するスポーツチャレンジ賞。2. スポーツ振興に関わる社会環境や実態調査を元に、社会への提言活動を担う調査研究プロジェクト。3. 当財団の各事業活動に関する情報などを社会に発信する活動を行っています。

### 1. 表彰 (スポーツチャレンジ賞)

本事業は、スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰するものです。スポーツに関する技術、指導、研究、普及、ジャーナリズムなど幅広い分野において、輝かしい功績をあげ、且つ、これまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体を表彰する制度で、「功労賞」と「奨励賞」の2部門から構成しています。

#### <本賞の概要>

功労賞	内 容	長年もしくは過去に行われ、現在のスポーツ振興の礎となるような貢献や、先駆的実績を誇るチャレンジで、注目を浴びることの少なかった、本来高い評価を得るに相応しい、「縁の下の力持ち」的な存在を表彰します。
	対象者	既に優れた成果をあげ、功をなした人物・団体
奨励賞	内 容	短期的もしくは中期的に行われ、その年、極めて高い成果をあげ、今後のスポーツ振興に大きな影響力の発揮が期待されるチャレンジで、注目を浴びることの少なかった本来高い評価を得るに相応しい、「縁の下の力持ち」的な存在を表彰します。
	対象者	その年、高い成果をあげ、今後さらなる成長が期待される人物・団体
後 援	(公財)日本スポーツ協会、(公財)日本オリンピック委員会 (公財)日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会	

#### <2019年度(第12回) スポーツチャレンジ賞受賞者の表彰> ※ 2019年度からの継続活動

候補者募集	2019年9月13日(金)～10月31日(木)	
選考委員会	第1回 2019年12月4日(水)、5日(木)都内会場 第2回 2020年1月16日(木)、17日(金)都内会場	
贈呈式	2020年12月17日(木) 都内ヤマハ発動機東京事務所	
受賞者	功労賞	・該当者なし
	奨励賞	・ Scrum Unison(スクラム ユニゾン) 廣瀬俊朗氏他6名 ・ ラグビーワールドカップ日本大会にて世界から集まる選手やファンを「国歌やラグビーアンセム」を歌って“おもてなし”
情報公開	・贈呈式の模様は当財団ホームページにて公開・掲載 ・受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ(特集記事)「BACK STORIES(バック・ストーリーズ)」の中で紹介	

<2020年度(第13回) スポーツチャレンジ賞の選考>

候補者募集	2020年9月14日(月)～10月31日(土)
選考委員会	第1回 2020年12月6日(日) 都内日本青年館ホテル(Web会議方式での開催) 第2回 2021年1月23日(土) ヤマハ発動機(株)コミュニケーションプラザ(Web会議) 24日(日) 同上(Web会議)
贈呈式	※日程・会場等は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を勘案して決定
受賞者	【功労賞】 該当者なし 【奨励賞】 フォトグラファー 越智 貴雄 氏 “写真を通し、パラアスリートのアスリートとしての活躍・魅力を伝播
情報公開	・当日の様子は当財団ホームページにて公開・掲載 ・受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ(特集記事)「BACK STORIES(バック・ストーリーズ)」の中で紹介

## 2. 調査研究、シンポジウム等の開催

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究を行い、その成果の社会活用を促進する活動を行っています。

- ・ 9年目となる障害者スポーツ分野では、① 障害者スポーツ選手のキャリア調査、② コロナ禍におけるアスリートの活動状況調査、③ ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験での児童の意識変容調査を実施し、それらの結果を調査報告書として発行しました。
- ・ トップスポーツ分野では、2019年度において(一社)日本トップリーグ連携機構の協力を得て、同機構に加盟各リーグ所属の全国各地のトップスポーツ組織(プロ・実業団・大学)を対象に実施した調査を受け、2020年度は、「トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査」－自治体(200市区町)からみたトップスポーツチームの社会連携活動－をテーマとする調査を行い、その結果を調査報告書として発行しました。

### (1) 障害者スポーツプロジェクト

<プロジェクトミーティング開催実績>

回	開催年月日	会場	テーマ	出席者
第1回	2020年7月13日(月)	Web会議	2019年度レビュー他	8名
第2回	2020年7月21日(火)		キャリア調査について	8名
第3回	2020年11月16日(月)		2020年度報告書作成について	8名

① 障害者スポーツ選手のキャリア調査

本調査は 2019 年度から行っているもので、選手一人ひとりの個人史ならびにスポーツキャリアに関わるインタビューを実施し、どのような環境、支援、他者とのかかわりの中でスポーツを始め、継続しているのかについて検討しています。

今年度は、以下の選手に協力を戴き、オンラインもしくは対面でインタビューでの調査を実施しました。

<調査の概要>

調査内容	基本的属性、競技歴、障害発生から障害者スポーツ開始までの経緯、受傷前のスポーツ経験が障害者スポーツ開始に与えた影響、障害者スポーツ開始に影響を与えた社会的状況・環境・条件、受傷前のスポーツ経験が障害者スポーツ開始に与えた影響、障害者スポーツ継続に関する状況、スポーツ継続に影響を与えた社会的状況・環境・条件、今後のスポーツ実施意向等
調査対象者	障害者アスリート 14 名
調査期間	2020 年 2～12 月
調査方法	Web 会議方式、もしくは対面によるインタビュー形式

② コロナ禍におけるアスリートの活動状況調査

本調査は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言(2020 年 4 月 7 日発出)により、日常生活をはじめ、練習環境や大会参加など行動制限の中での障害者アスリートの実態把握を目的に実施しました。

<調査概要>

調査内容	調査対象者	調査期間	調査方法
1. 緊急事態宣言時の対応 2. 感染リスク対応 3. コロナ禍での考え方、行動のあり方 4. コロナ禍で困っていること	障害者アスリート (現役・引退含む) 13名	2020 年 7～12 月	Web 会議方式 あらかじめ決めておいた質問項目に自由回答してもらう半構造化インタビューにて実施

③ ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験での児童の意識変容調査

本調査は、2020 年度より順次施行される新しい学習指導要領の理念を実現し、スポーツを通じた共生社会等を実現するための教育内容の検討基礎資料を得ることを目的としています。

新学習指導要領にはパラリンピック教育が明示され、児童生徒の意識のみならず多様な行動変容につながるような教育を進めることとなっています。

「チャレンジ！ユニ★スポ」の教育内容で子どもたちの意識や行動がどのように変容するのかを、3回のアンケート調査結果(体験前、後、数か月後)より分析しました。

<調査概要>

調査対象	質問項目	実施時期
2019年度の「チャレンジ！ユニ★スポ」に応募し、調査協力を得た静岡県内15校の児童生徒1,143名を対象。	1. 障害のある人との距離感 2. 東京2020オリンピック・パラリンピックへの興味 3. 知っている障害者スポーツ 4. ボッチャの感想 5. 障害者イメージ 6. 障害者スポーツのイメージ 7. アダプテッドの主体性、適用度	体験事業の「事前」、「直後」、「数か月後」の3回について調査を実施。

④ 調査報告書の発行

<2020年度 障害者スポーツ調査研究報告書(全3章)> ※ホームページにて詳細情報を公開

障害者スポーツを取り巻く社会環境に関する調査研究 ー障害者スポーツ選手キャリア、コロナ禍の影響、ユニ★スポ体験の効果に着目してー
第1章 障害者スポーツ選手のキャリア調査
第2章 コロナ禍におけるアスリートの活動状況調査
第3章 ユニ★スポ体験での児童の意識変容調査

(2) トップスポーツプロジェクト

<プロジェクトミーティング開催実績>

回	開催年月日	会場	テーマ	出席者
第1回	2020年7月28日(火)	Web 会議	自治体・地域住民調査分析他	7名
第2回	2020年8月21日(金)		調査結果及び報告書作成他	7名
第3回	2020年12月16日(水)		2020年度報告書作成について	7名
第4回	2021年2月26日(金)		自治体調査報告書作成	7名

『2020年度トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査』

ー自治体(200市区町)からみたトップスポーツチームの社会連携活動ー

2015年より開始した本プロジェクトは、「スポーツ振興・普及と地域振興の未来像」を探ることを目的に、さまざまな運営形態で成立しているわが国のトップレベルのスポーツ組織(チーム、クラブ等)を「トップスポーツ」という包括的な概念でとらえ、その運営施策、地域自治体等との関係のあり方について調査をしています。

2019年度調査がスポーツ組織側の取り組みに着目したのに対して、2020年度に実施した本調査(『2020年度 トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査ーホームタウン(200市区町)からみたトップチームの社会連携活動ー』)においては、スポーツ組織の取り組み(社会連携活動)に対する自治体の「重視度」、「満足度」、「期待度」を中心に調査を実施しました。

<調査概要>

調査手法	質問紙を用いた郵送調査
対象地域	トップスポーツチーム(日本トップスポーツ連携機構加盟 チーム)及びNPBの球団が活動拠点を有する290自治体
サンプル数	200自治体(回答率68.9%)・278チーム分回答
実施期間	2019年2月～3月

<2020年度 調査研究報告書概要(全3章)>

※ホームページにて詳細情報を公開

2020年度トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査』 ー自治体(200市区町)からみたトップスポーツチームの社会連携活動ー	
第1章	自治体とトップスポーツ組織との連携
第2章	自治体から見た、チームの地域活動に関する意識
第3章	自治体の意識とトップスポーツ組織の特徴・活動との関連性

3. その他情報発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、事業活動などに関する情報をホームページなどを通じて広く社会に対して発信しています。

また、刊行物やリリース発行などでの広報活動の充実にも努めています。

情報発信手段	概 要
ホームページ	① 主な掲載内容 ・各事業活動の告知(案内、募集、結果報告など) ・第14期スポーツチャレンジ助成対象者の実像を紹介 ・第12回スポーツチャレンジ賞受賞者の人物像を紹介 (BACK STORIES) ・ジュニアヨットスクール葉山の活動紹介 ・スポーツ教材の提供の模範的な活用事例の紹介 ・第32回全国児童 水辺の風景画コンテストの実施報告 ・調査研究活動に関する報告書の情報など ② ページビュー 2020年度 287,250 2019年度 345,392
ニュースリリース	・スポーツチャレンジ助成 助成対象者募集、対象者決定など計10件
Face Book	・スポーツチャレンジ助成事業における助成対象者(OB・OG含む)の活動状況。 ・各事業(行事)の様子などについて事業関係者等を対象として情報共有を促進。
刊行物	・YMFS通信 毎月配信 (配信先 約400か所) ・2020年度年間事業報告書 Yearly Digest 500部 ・2020年度障害者スポーツを取り巻く社会的環境に関する調査研究 2,000部

## 【事務報告】

### 1. 理事会、評議員会

#### <理事会>

回	開催日時・会場	議 事
1	2020年5月15日(金) 2020年度第1回理事会 (書面決議)	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>第1号議案 2019年度 事業報告承認の件(承認) 第2号議案 2019年度 計算書類等承認の件(承認) 第3号議案 定時評議員会招集の件(書面決議含む)(承認) 理事選任、代表理事・業務執行理事選定など</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大に伴う事業活動への影響等</li> <li>・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告他</li> </ul>
2	2020年10月23日(金) Web会議方式での開催 ヤマハ発動機(株)コミュニケーションプラザ C304	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>第1号議案 2020年度修正予算承認の件(承認可決) 第2号議案 助成事業審査委員会委員長選任の件(承認可決) 第3号議案 審査委員会規程一部改正の件(承認可決) 第4号議案 名誉審査委員長推薦の件(承認可決)</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度上半期事業報告、下半期事業活動</li> <li>・2020年度中間決算と今後の見通し</li> <li>・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告</li> </ul>
3	2021年2月25日(木) Web会議方式での開催 ヤマハ発動機(株)コミュニケーションプラザ C304	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>第1号議案 2021年度事業計画承認の件(承認可決) 第2号議案 2021年度収支予算承認の件(承認可決) 第3号議案 資金調達及び設備投資の見込承認の件(承認可決)</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度事業概況及び収支見通し</li> <li>・次期中期事業方針検討経過報告</li> <li>・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告他</li> </ul>

#### <評議員会>

回	開催日時・会場	議 事
定 時	2020年6月12日(金) (書面決議)	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>第1号議案 2019年度計算書類等承認の件(承認可決) 第2号議案 理事選任の件(承認可決) 第3号議案 代表理事、業務執行理事(常務理事)選定の件</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度事業報告</li> <li>・2020年度事業計画報告その他</li> </ul>

<内閣府立入検査(定期的)概要>

日 程	検査主旨	内閣府担当官
2020年12月10日(木)	(1)法令に基づく立入検査 (2)コロナ禍の影響と対応の確認	高橋審査監督調査官 林政策企画調査官